

2007 年には日本の地質百選に選定された。

活火山としての活動は、噴火の 1 週間前頃から地鳴りがあり、1888 年（明治 21 年）7 月 15 日 午前 7 時 地震発生、続いて午前 7 時 45 分 20 回も連続する水蒸気爆発による噴火が続いた後、小磐梯山北側で水平方向への爆発的噴火で山体崩壊が発生、その土石流や火山泥流が、北麓の集落 5 村 11 集落に流れ込み、埋没するなど甚大な被害を及ぼし、死者 477 名の大災害であった。

明治新政府にとっては、はじめての自然大災害であって、新政府の腕の見せ所とばかり災害救助や復興に全力を尽した。

義捐金が 3 万 8 千円（現、貨幣価値約 15 億円）が集められ、世界初の平時救護活動（当時は戦時救護活動だけ）が適用され、活動に従事、結成間もない日本赤十字社も初めて救護に出動した。このため平時災害救護発祥の地として、碑が建立されている。

一方、この泥流が長瀬川とその支流を堰き止め、檜原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼をはじめとする大小様々な湖や沼をつくり、裏磐梯の景観を作り上げ、現在の国立公園となった。

会津民謡玄如節から転用され、昭和 10 年小唄勝太郎がレコードに吹き込むことによって全国的にヒットした 民謡会津磐梯山

「(エンヤ-) 会津磐梯山は、宝の(コリヤ) 山よ、笹に黄金が(エ- マタ) なりさがる」

富岡町民の皆さん、浜通りの皆さん、福島県の皆さん、絶対に再興できます。

笹に黄金がなりさがる、黄金郷を創り上げましょう。

豊かな大自然に恵まれた福島県だからこそ絶対に蘇ります。

